

作成日 2012年3月30日

修正日 2022年3月14日

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	PropyleneGlycolNpropylEther 1-プロポキシ-2-プロパノール (1-Propoxy-2-propanol)
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪府大阪市北区西天満3丁目10-3
電話番号	06-6809-5970
推奨用途及び使用上の制限	塗料・クリーナー・インキなどの溶剤

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	分類実施日	JIS Z 7252, 7253:2019 使用
	物理化学的危険性	引火性液体 区分3
	健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用)

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、環境有害性については12項に、「区分に該当しない」または「分類できない」の記述がある。

## GHSラベル要素

## 絵表示

炎、感嘆符

注意喚起語  
危険有害性情報

警告  
引火性液体及び蒸気  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
眠気又はめまいのおそれ

注意書き  
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

取扱後は手などをよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

## 応急措置

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

多量の水と石けんで洗うこと。

特別な処置が必要である。(このラベルの…を見よ。)

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。

#### 保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。

#### 廃棄

施錠して保管すること。  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

#### 単一製品・混合物の区別

化学名又は一般名  
別名

単一製品

1-プロポキシ-2-プロパノール  
プロピレングリコールモノプロピルエーテル、プロピレングリコール *n*-プロピルエーテル、Propylene glycol monopropyl ether、Propylene glycol *n*-propyl ether

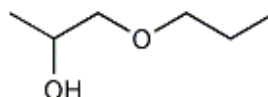
濃度又は濃度範囲

100%

分子式(分子量)

C<sub>6</sub>H<sub>14</sub>O<sub>2</sub>(118.18)

化学特性(示性式又は構造式)



CAS番号

1569-01-3

官報公示整理番号(化審)

(2)-2424、(7)-97

官報公示整理番号(安衛)

(2)-2424、(7)-97

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

データなし。

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

多量の水と石けんで洗うこと。

特別な処置が必要である。(このラベルの…を見よ。)

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

#### 皮膚に付着した場合

眼に入った場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
飲み込んだ場合 予想される急性症状及び遅発性症状 の最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。 データなし。  データなし。 データなし。
5. 火災時の措置 消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	棒状水 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火を行う者の保護	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火に粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水を使用すること。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない安全な用具を使用する。 回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
安全取扱い注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。 容器を密閉しておくこと。

		<p>容器を接地すること、アースをとること。          防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。          火花を発生させない工具を使用すること。          静電気放電に対する予防措置を講ずること。          粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。          取扱後は手などをよく洗うこと。          屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。          保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。          火気厳禁          取扱い後は手などをよく洗うこと。          換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。          容器を密閉しておくこと。          施錠して保管すること。          火気厳禁          データなし。</p>
保管	<p>衛生対策          安全な保管条件</p> <p>容器包装材料</p>	
<b>8. ばく露防止及び保護措置</b>		
管理濃度		未設定
許容濃度	<p>日本産衛学会(2010年度版)          ACGIH(2011年版)</p>	未設定
設備対策		<p>未設定          蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。          取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。          容器を接地すること、アースをとること。          防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。          火花を発生させない工具を使用すること。          静電気放電に対する予防措置を講ずること。          必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。          保護手袋を着用すること。          保護眼鏡、保護面を着用すること。          保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p>
保護具	<p>呼吸器の保護具          手の保護具          眼の保護具          皮膚及び身体の保護具</p>	
<b>9. 物理的及び化学的性質</b>		
	物理的状态	
	形状	液体(GESTIS(Access on May. 2011))
	色	無色(GESTIS(Access on May. 2011))
	臭い	僅か(GESTIS(Access on May. 2011))
	臭いのしきい(閾)値	データなし。
	pH	データなし。
	融点・凝固点	-80°C(GESTIS(Access on May. 2011))
	沸点、初留点及び沸騰範囲	150°C(Lide(90th,2009))
	引火点	48°C(CC)(GESTIS(Access on May. 2011))
	蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし。
	燃焼性(固体、気体)	データなし。
	燃焼又は爆発範囲	データなし。
	蒸気圧	1.7 mmHg(25°C)(HSDB(2002))
	蒸気密度	4(PATTY(5th,2001))
	比重	0.884(20°C)(PATTY(5th,2001))
	溶解度	水:1000g/L(25°C)(Howard(1997))
	n-オクタノール/水分配係数	0.621(EST)(HSDB(2002))
	自然発火温度	252°C(MSDS(Sigma-Aldrich)(Access on May. 2011))
	分解温度	データなし。
	粘度(粘性率)	データなし。

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
安定性	情報なし。
危険有害反応可能性	データなし。
避けるべき条件	データなし。
混触危険物質	データなし。
危険有害な分解生成物	データなし。

## 11. 有害性情報

急性毒性 経口	ラットのLD50値として4件のデータ(4370 mg/kg、2510 mg/kg、2890 mg/kgおよび2800-3000 mg/kg) (いずれもPATTY (5th, 2001))がある。GHS分類: 区分に該当しない(国連分類基準: 区分5)
経皮	ウサギのLD50値として4件のデータ(3550 mg/kg、3810 mg/kg、2820 mg/kg、4370 mg/kg) (全てPATTY (5th, 2001))がある。GHS分類: 区分に該当しない(国連分類基準: 区分5)
吸入: ガス	GHSの定義における液体である。GHS分類: 区分に該当しない
吸入: 蒸気	ラットに飽和蒸気圧濃度(11.7 mg/L)を8時間ばく露(4時間換算: 16.5 mg/L)により死亡はなく、また、飽和蒸気圧濃度(10.8 mg/L)を6時間ばく露(4時間換算: 13.2 mg/L)でも死亡が見られなかったと報告されている(PATTY (5th, 2001))。が、以上の結果からLD50値が特定できないので「分類できない」とした。GHS分類: 分類できない
吸入: 粉じん及びミスト 皮膚腐食性及び刺激性	データなし。GHS分類: 分類できない ウサギの皮膚に0.5 mLを4時間の閉塞適用後6匹中4匹に軽度(mild)から中程度(moderate)の紅斑及び浮腫を生じたが、壊死または潰瘍形成は観察されなかった(PATTY (5th, 2001))との報告がある。なお、ウサギに24時間閉塞適用した別の試験で、軽度の刺激性(lightly irritant)との報告(ECETOC TR 95 (2005))、また、より過酷な条件下で持続性の亀裂、落屑、潰瘍、壊死を伴った重度の刺激性(severe irritation)が見られたとの報告(PATTY (5th, 2001))もある。GHS分類: 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギの眼に0.005~0.1 mLを適用した試験で重度の結膜炎と軽度のびまん性角膜損傷を起こしたが、完全に回復するには3-14日間を要したとの報告(PATTY (5th, 2001))がある。回復には7日を越えているため、なお、ウサギを用いた別の試験では、中等度~顕著な刺激性、中等度の角膜傷害、軽度の虹彩炎が認められたが、1週間以内に治癒したと報告されている(HSDB (2002))。GHS分類: 区分2A
呼吸器感作性	データなし。GHS分類: 分類できない
皮膚感作性	データなし。GHS分類: 分類できない
生殖細胞変異原性	in vivo試験のデータがないので、分類できない。なお、in vitro試験では、エームス試験およびラットのリンパ球を用いた染色体異常試験で陰性(ECETOC TR 95 (2005))が報告されている。GHS分類: 分類できない
発がん性	データなし。GHS分類: 分類できない

<b>生殖毒性</b>	妊娠ラットの器官形成期に吸入ばく露した試験において、母動物の眼周囲の痂皮形成と鏡検による角膜潰瘍の証拠、胎仔後肢の近位指骨の化骨遅延が認められたのみで、母動物の毒性および胎仔毒性ともに報告されていない (ECETOC TR95 (2005))。また、妊娠ウサギの器官形成期に吸入ばく露した試験では、高用量群で活動低下、運動失調、虚脱などの症状と高い死亡率(27.3%)を示したが、妊娠および胎仔の指標にばく露の影響は認められなかった (ECETOC TR95 (2005))。しかし、交配前からのばく露による性機能および生殖能に対する影響についてはデータがなく、データ不足である。GHS分類:分類できない
<b>特定標的臓器毒性(単回ばく露)</b>	ラットに8時間の吸入ばく露で、死亡は見られなかったが、症状が麻酔状態のように見えたとの報告およびラットに高用量の経口投与により中枢神経系の抑制を示したとの記述、さらにウサギに経皮投与後15-30分以内に昏睡が見られたとの記述(いずれもPATTY (5th, 2001))がある。GHS分類:区分3(麻酔作用)
<b>特定標的臓器毒性(反復ばく露)</b>	2系統(SD系およびFischer 344系)のラットに1日6時間14週間吸入ばく露した試験において、Fischer 344系ラットの雌が高濃度群(300 ppm)群で体重増加抑制を示したが、両系統とも、その他の体重、摂餌量、飲水量は対照群と差がなく、剖検による異常は見られず、病理組織学的検査でもばく露に関連した変化は見られなかった (ECETOC TR95 (2005))。高濃度群の300 ppm(1.475 mg/L)はガイダンス値上限(1 mg/L)を超えているので、吸入ばく露では区分外相当となるが、他経路(経口、経皮)についてはデータがなく影響が不明である。GHS分類:分類できない
<b>誤えん有害性</b>	データなし。GHS分類:分類できない
<b>12. 環境影響情報</b>	
<b>生態毒性 水生環境有害性 短期(急性)</b>	データなし。GHS分類:分類できない
<b>水生環境有害性 長期(慢性)</b>	データなし。GHS分類:分類できない
<b>オゾン層への有害性</b>	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。GHS分類:分類できない
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
<b>残余廃棄物</b>	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
<b>汚染容器及び包装</b>	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。	
<b>国際規制</b>	海上輸送はIMOの規則に、航空輸送はICAO/IATAの規則に従う。
<b>国連番号</b>	3271
<b>国連品名</b>	エーテル類
<b>国連危険有害性クラス</b>	3
<b>容器等級</b>	III

<p><b>国内規制</b></p> <p>海洋汚染物質 海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報</p> <p><b>特別安全対策</b></p>	<p>該当しない。</p> <p>船舶安全法の規定に従う。</p> <p>航空法の規定に従う。</p> <p>消防法の規定に従う。</p> <p>移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。</p> <p>重量物を上積みしない。</p>
<p><b>緊急時応急措置指針番号</b></p>	<p>127</p>

## 15. 適用法令

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

<p><b>労働安全衛生法</b></p> <p><b>消防法</b></p> <p><b>船舶安全法</b></p> <p><b>航空法</b></p>	<p>危険物・引火性の物</p> <p>第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体</p> <p>引火性液体類</p> <p>引火性液体</p>
---	--

## 16. その他の情報

**参考文献** 各データ毎に記載した。

＜モデルSDSを利用するときの注意事項＞

本モデルデータシートは作成年月日時点における情報に基づいて記載されておりますので、事業場においてSDSを作成するに当たっては、新たな危険有害性情報について確認することが必要です。さらに、本データシートはモデルですので、実際の製品等の性状に基づき追加修正する必要があります。また、特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた情報に基づく安全対策が必要となります。